

## □ アナリスト週間相場予想

	原油 Oil	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎			
西			

## Pick up News

[注目スケジュール]

- 12/10 原油・石油製品供給統計週報 (石油連盟)  
米エネルギー情報局 (EIA) 週間在庫統計
- 11 世界エネルギー機関 (IEA) 石油市場月報
- 12 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

## □ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



エネルギーセクター全体が先週の週報から相場観の変更無し。チャートは東京ガソリン日足に14本RSIを下段に表示したものであるが、今週12/2に11/21安値35930円をブレイクダウン。週末の本日に至るまで、同ラインがレジスタンスとして日足を押さえ込んでいる。ここから反発に転じる為にはテクニカル見地からは少なくともこの35930円を上抜ける必要があるだろう。又、14本RSIは21.44と低レベルではありながら目視による方向は下向き、過去にエネルギー銘柄の同じパラメータにおけるRSIの数値は2.93(2007/8/22ガソリン)という数値を示現した事もあり10以下の数値を記録する事は珍しくない。同様に他のエネルギーセクター銘柄を観察すると灯油は同じく12/2に直近安値42350円(11/21)をブレイクダウン、RSIは23.82、原油は12/4に直近安値28440円(11/21)をブレイクダウン、RSI26.58となっており、ガソリンと同じ特徴を示現しながら下降トレンドの中にある。いずれも売り玉の撤退ラインとして11/21の安値を意識しながら売り方針は変わらず(12/5前引け現在)。

## □ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

NY原油相場は安値更新が続いている。OPEC(石油輸出国機構)が減産決定を先延ばししたことに加え、世界景気の一段の悪化が懸念される中で、来年の世界需要がマイナスに転じるとの見方から、下値模索の展開が続いているものだ。市場では40ドルが目先の下値目標と見られている。仮にこの節目を割り込むようであれば、17日に予定されているOPEC会合で減産が決定されるのは必至、それも日量200万バレル規模の大減産につながる可能性が高い。それでも市場は根本的な要因、すなわち需要減速に目を向けているため、人為的な政策(減産)がもたらす影響は長続きしないと見ておく必要がある。

史上最高値から100ドルの下落となったが、超長期スパンで見れば、これまでのレンジの上限がおよそ40ドルであり、通常のレベルに戻っていると見ることも可能。そこから新興国の経済成長に伴う需要増加と、今回の世界的な景気減速による需要低下を加味したところが、需給をもとにしたフェアバリュー(適正価格)ということが出来る。それに現状では投機筋のポジション調整や、先行き不安感を伴った売り圧力が残っており、当面は買いは見送らざるを得ない。

OPECの追加減産はほぼ確定と思われるものの、その前に発表されるIEA(世界エネルギー機関)の月報にて、世界需要見通しがどの程度修正されるかにも注目したい。一旦は40ドル割れトライの流れを想定、そこからはOPEC会合を控えてのリバウンド局面も予想されるが、それを期待しての買い方針は取りづらい環境だ。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0083(許可取得日08/12/5)